

都市計画部門 一研究懇談会

グローカル時代の景観デザイン

[資料あり]

9月12日(火) 13:30~17:00 オンライン 第G室

司会 阿久井康平(大阪公立大学)

副司会 松井大輔(新潟大学)

記録 高取千佳(九州大学)

1.主旨説明 志村秀明(芝浦工業大学)

2.主題解説

①近代の仮構からランドスケープを取り戻す

竹中克行(愛知県立大学)

②アフターコロナの景観

栗山尚子(神戸大学)

③再生可能エネルギーをめぐる景観

沼田麻美子(土地総合研究所)

④自然災害に対するレジリエンスと景観

益尾孝祐(愛知工業大学)

3. 討論

4.まとめ 阿久井康平(大阪公立大学)

景観は地域固有の環境や歴史・文化・社会がローカルに具現化されるものであり、景観を守り育むためには、地域に根ざして暮らす人々の生活と営みの蓄積、自立したコミュニティ活動が基盤となり、広く景観や地域デザインに関わる様々な人々のローカルへの眼差しと理解、関わりが必要不可欠である。しかしながら、情報と経済のグローバル化が加速し、新自由主義の台頭、そしてインターネットの急速な普及もあり、国境を越えたグローバルな情勢が、ローカルな景観に多大な影響を及ぼすようになっている。もはやローカルだけに注目しては、都市の景観デザインでも地方の景観デザインでも、将来進むべき方向や戦略は見えてこない。反対に、地域に根ざす景観デザインが、グローバルな取組みを活性化する可能性もある。グローカリゼーション(Glocalization)を越えて、「グローバルとローカルが触発し合う景観デザインを展望する時代」に来ていると言えるだろう。

そこでグローカル景観デザイン小委員会では、現在我々が直面している重要課題であり、グローバルとローカルが触発し合うであろう3つのトピックごとに、公開研究会「ウィズ・

アフターコロナの景観ビジョンとアプローチ」、「再生可能エネルギーをめぐる景観」、「自然災害に対するレジリエンスと景観」を開催してきた。本研究懇談会では、これら3つの公開研究会の成果を報告すると共に、地理学の視点を踏まえて、グローカル時代の景観デザインに関する議論を深めていく。議論を踏まえて、急速に変わりつつある景観の現状を把握し、直面している課題を明らかにし、景観の保全・向上のための論点を明確化し、グローカル時代の景観施策について提言することを最終成果として取りまとめることを狙っている。

景観研究の第一人者から景観研究を志す学生まで、多くの方々の参加を期待する。